

第8回 開志専門職大学 事業創造学部

教育課程連携協議会 議事録

1. 日 時：2024 年 9 月 24 日（火）15：00～17：00

2. 会 場：開志専門職大学 紫竹山キャンパス 7 階会議室

（オンラインでの参加者は Teams にて参加）

3. 出席者：向正道 委員長、唐木宏一 委員、高野英介 委員、武田修美 委員、田中豊 委員、
（五十音順）

事務局：遠田孝之 学務部長、阿部朋子 事業創造学部 学務課課長、今井泰子 学務課職員

オブザーバー：徳田賢二副学長

欠席者：なし

4. 議 事：

【報告】

（1）2024 年度 教育課程に関する報告と質疑応答

1）事業創造学部 学生募集状況（2024 年度 9 月末時点）

・オープンキャンパス動員状況

・Open Gate Niigata

2）新カリキュラム移行後の学生状況（2024 年度前期学生アンケート）

3）事業創造学部 学生状況（2024 年度 9 月末時点）

4）事業創造学部 運営報告（2023 年度後期、2024 年度前期）

5）就職内々定状況報告（2024 年度 9 月末時点）

6）質疑応答

5. 議事結果：

●徳田副学長よりご挨拶

AC実地調査では、改善事項が1件あったが大きな問題の指摘はなく、無事にAC期間を終了することとなった。改善事項は教員組織についてのものだった。

調査にあたられた主査の方からは全体を通しては特段の問題はなく、今後に期待ができる状況と思うので、他の専門職大学の模範となるように努力をして欲しいとの励ましの言葉も頂いた。

その中でも質疑応答で取り上げられた事項としては「定員未充足」についての点だった。これについての改善計画を問われ、社会的認知の向上（高校との連携・アプローチ）とカリキュラムのより良い改善を挙げた。また、入学者の中にはアドミッションポリシーを十分に理解していないことも要因ではないかとの指摘もあり、向学部長を中心に取り組んでいるところでもある。

臨地実務実習においては、大学と企業の密なコミュニケーションが大切であり、今後もしっかり注視して取り組むことが確認された。

これまでの本会においても、臨地実務実習や大学としての強みをどこに持つかを委員の皆さまから多数ご意見・アドバイスを頂いておりこの場を借りてあらためて御礼申し上げる。

【報告】

(1) 2024 年度 教育課程に関する報告と質疑応答

1) 事業創造学部 学生募集状況 (2024 年度 9 月末時点)

- ・ オープンキャンパス動員状況
- ・ Open Gate Niigata

向委員長より、資料 2 について説明された。

(田中委員) どこまでの範囲(地域)の高校へ向けて大学のプロモーションを行っているのか。

→ (向委員長) 新潟県全域と近隣県の山形県・長野県・福島県まで行っている。

書籍の配布や OpenGateNiigata などは新潟県内(新潟市中心)に行った。

教員が高校訪問をする際は、偏差値が高い高校という訳ではなく、新しい取り組みに興味を持っていただける高校や商業高校などを中心に訪問を行っている。

(高野委員) 様々な取り組みをされて成果を出していることが素晴らしいと感じる。その中で、プロモーション書籍の発行について、なかなか手にとられづらい本を媒体として選んだ狙いは何か。

→ (向委員長) 高校での探求授業で教材としてなり得るものであること、高校訪問時のツール・きっかけとして活用するため。

2) 新カリキュラム移行後の学生状況 (2024 年度前期学生アンケート)

3) 事業創造学部 学生状況 (2024 年度 9 月末時点)

- ・ 学務課阿部より、資料 3-1、2 について説明された。
- ・ 向委員長より、参考資料 1 について説明された。

(高野委員) 卒業生の進路決定状況・希望を見ると、公務員がゼロとなっているが、これは学部の特性として公務員志望の学生はあまりいない状況なのか。ぜひ優秀な学生に新潟市へも来ていただきたい。

→ (学務課遠田) 昨年度、1 名公務員志望はいたが、学力不足で合格とはならなかった。入学時には数名、志望の学生はいるが大学としては経営・創業についての学びが中心となるため、それを進めていく中で民間就職や起業に興味・関心が向いた結果だと思われる。

公務員志望の学生が複数名いるような状況になれば、大学としてのフォローアップも検討していきたい。

4) 事業創造学部 運営報告 (2023 年度後期、2024 年度前期)

- ・ 学務課阿部より、資料 4-1・2 について報告された。
- ・ 向委員長より、参考資料 2 について説明された。

(高野委員) 10 月のイベント<日々是新>に開志専門職大学として参加頂けること、楽しみにしております。

- ・ 向委員長より、資料 5 について説明、及び、新カリキュラムでの企業内実習の流れについて説明

された。

5) 就職内々定状況報告(2024 年度 9 月末時点)

学務課阿部より資料6、7について説明された。

6) 質疑応答

(田中委員) 募集が厳しい状況とは言うものの、広報における営業活動が実っていると思う。社会的に就職率が良い状況とは言われているが、その中でも2名の創業者を輩出していることは、専門職大学のスタートとしてとても良いものだったと思う。3月の卒業式もとても素晴らしいものであり、1期生が卒業を迎えた姿は感無量であった。将来、卒業生たちが会社を興し、さらなる雇用創出に繋がっていくということが起こった時に、新潟にこの大学を創って良かったと思えるのではないかと感じた。

(唐木委員) 学生募集について、多くの大学で定員充足が難しいと言われている中で、専門職大学という新しい取り組みで努力されており、その地道な努力が実っていくだろうという期待が持てる印象を受けた。やらなければならないことが非常に多いとは言え、入口としての学生募集、出口としての卒業生の就職・起業支援をしっかりとやっていることが結果に結びつくことを期待したい。

OpenGateNiigata については、事創大からも知恵を出すこと・教員の連携などで、協力をして盛り上げていきたい。

新しい提案は特にはないが、この間に取り組んでいることを確実に進めていくことで状況の改善は計れていくのではないかと期待が持てる内容であった。

(武田委員) 今年度、一步離れたところから大学を見たことによって、いろいろな話を聞くことができた。その中で特に、OpenGateNiigata の取り組みについてもいろいろな反響があったと感じた。

大学内で何かをしていることは、大学の外には届きにくいことが良く分かった。他の大学の学生や高校生からもこの話題や大学の名前を聞くことがあったことからオープンキャンパスでは伝えきれないことが伝えられる機会になっているのではないかと感じた。

また、書籍についても既存の大学の動きにとらわれていないものだと感じた。

これからも大学内外問わずに関わっていきたいと思っている。

(高野委員) 特に定員充足に向けていろいろな取り組みを行っていることが良く分かった。引き続き、良い結果が出ることを期待している。

10月の「日々是新」においては企業が学生との関わりを求めているところがあるため、これを契機にさらにこのような活動が広まっていくことを願いたい。

5. 資料

【資料 1】教育課程連携協議会 構成員名簿（1003）

【資料 2】9 月_教育課程連携協議会_入試広報

【資料 3-1】事業創造学部学生状況（2023 年 3 月）

【資料 3-2】事業創造学部学生状況（2024）

【資料 4-1】2023 年度 事業創造学部運営報告

【資料 4-2】2024 年度 事業創造学部運営報告

【資料 5】2024 実習連絡先

【資料 6】事業創造学部 2025 年卒_内々定企業

【資料 7】2024 年度大学祭 保護者会報告（総務会資料）

以上